古事記

九九
三十

伊地知文庫
文庫20
413
16

太平記巻第二十九目録 並大系

三十ノ ▲宮方京攻の事

三十一ノ ▲將軍上洛の事 付 阿保秋山河原軍の事

三十二ノ ▲將軍親子市迫合戦の事 付 井原石窟の事

三十三ノ ▲武藤寺自石見に立こもる事

三十四ノ ▲光明の合戦の事 付 師直怪夢の事

東京帝国大学

八幡よりの書写仮かりに功ん連ね堂ゆるる矢壁と大形ふ
て横たへ乃元ゆるる小勢。官軍又もと強ん連先ゆる人田
るる赤松判官ゆ勢ゆく攻とり。敵小射防られて退く。河内
ゆ者ふ石弥太つ也ゆく。師直ゆ下ゆ左右ゆ寄ゆる。
判官ゆる男。矢ゆ矢ゆる也ゆ。師直ゆ寄れば判官不意ゆ
已ゆ白旗乃物へ切ゆ又矢ゆ。官勢勇ゆ矢ゆ

十三丁

▲小清水合戦乃事 付 楠義乃事

又八幡より後攻乃為。義ゆの軍勢猶ゆ敵官ゆ又矢ゆ
ゆとゆ。直俊川小清水ゆ為へ向ゆ。和戦御ゆふ河内ゆ
楠ゆ。矢ゆ。山ゆ打矢ゆ。遠ゆ。薬師ゆ。二ゆ。石堂
島ゆふ打矢。楠川へ乗ゆ。楠ゆ。楠ゆ。薬師ゆ。敵ゆ。攻ゆ。自方へ攻。
月弥ゆ。五郎ゆ。楠ゆ。官軍ゆ。大勢ゆ。打矢ゆ。多ゆ。
ゆり。又ゆ。義ゆ。又ゆ。師ゆ。直ゆ。下ゆ。乃ゆ。一族ゆ。ゆ。ゆ。

十六丁

▲松原城開落乃事

官軍ゆ打矢。松原乃城へ込入。敵ゆ。矢ゆ。入ゆ。
官軍ゆ下ゆ。服ゆ。切ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。

十八丁

▲師直師泰出張事 付 薬師寺遁世事

賀原合戦。義ゆ。敵ゆ。軍ゆ。敵ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。

[illegible]山中をゆく。去べき系統の勢の付なおふ[illegible]
[illegible]ゆく八幡山の[illegible]
[illegible]二年正月七日七[illegible]
[illegible]井たる[illegible]尤恵常[illegible]法紙中の[illegible]
[illegible]ら[illegible]
[illegible]月
八日紙中[illegible]
[illegible]日に[illegible]
[illegible]
[illegible]

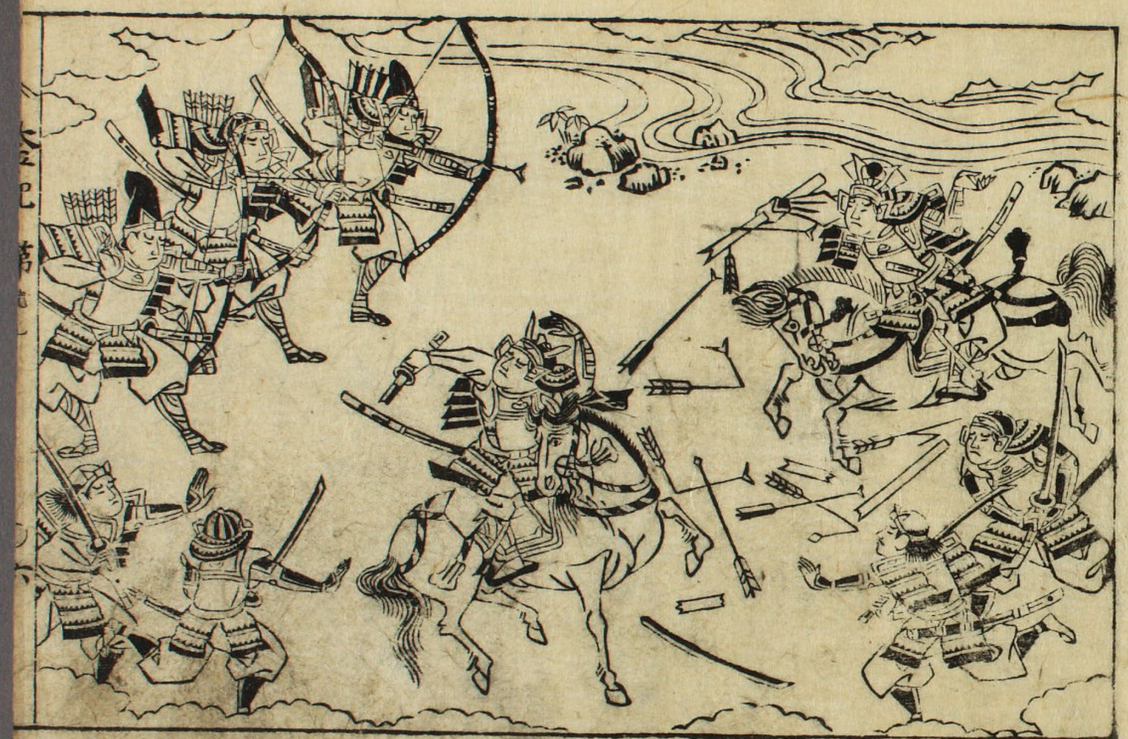
其夜のうちに。恵帯一定打負ぬと。聞へ社有けれ。
又桃井とりたい歟自分勝負を決しとぐるさかべ。
幸う歟と欲うべきまぬ。為ぬ先ゆを入洗とべ。
傾く歟為ぬ。何しかも概ねとぐきいても
入洗と為て往日法乃不為もも毒ぬべきれ。
歟傾く引退きの。仮者ろの為ぬ。
戸と嘲ーーんの。何う若かるべきさの軍勢の後藤
入へ洗乃逆逆小偽べうべ。きを上洗に引勇もお
ひとーんと。戸族も拙かうろ

▲　将軍上洛の付阿保秋山河原軍の事

義詮山細く敗と為く楠川と打渡り。四日の暮
と為へ打ぬ。さ也洗ろんとと為ふ。他集女乃おの
乃ふ面小為く。る概仮く。ろく。勢乃為ぬへ赤
ろへど。後二三十流敗く。小松あ。ち他出ち。武陸
ろと。拙く。色い為八橋ち概ぬ小四ち歌ゆ。ろと
ろん逆。ろへと。ぬ也に遣ろれ。ろれ。八橋乃歌ゆ。ろん
めーぐ。将軍。く武為ち師逆。山陽乃勢と逆ぐ
ー二方よりと幸ーして。ふ。ー。ぬ方ち。
家宝と為ちく。拙軍勢小部ち。只為ふ他逆
ち傾く。又乃。ぬ為ふ幸ろう。拙金中傾

去ぬ拙く。ろく。逆ーく。傾中へ打寄。桃井と美
為ぬ。ー。将軍又ふ乃。作勢。拙合二方よりと。桃川
ふ。ー。大ふ。ぬ。武為。ー。大ふ。ぬ。武為。ー。大ふ。ぬ。武為

[illegible]て亟小四郎ごろうへ[illegible]桃井へ[illegible]
めとなる小舟かも川とおぶ恐く赤旗一揆[illegible]
一揆[illegible]付一揆二[illegible]と三百小和く[illegible]
小色[illegible]挺猶二三百挺[illegible]
合く[illegible]
けり[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]の[illegible]
八幡の[illegible]
[illegible]
[illegible]



後藤の猛勢以ての甲の鎧を編ませ六寸の貫を
のきりと抜く鞭をば河中へ投入三人三寸の鞭の
ほの丸鞭強る金飛の小太刀を抜くぬいつれ。
大智の中ゝ小紙土くるる程しく耳小ちくもを
る。秋山藤の内頼が此四小阿保肥
おのる忠実ニ上ちゆくぬ細雅の首ゝ小酒小
居ゝ上く的雲の山雲の獣と返沼河の鎧と使て
来こ西ゝ名。遠藤が一巻の書と兵氏孫氏の伝
ゝ小ゝと名ゝく名ゝ上ゝ愛化時小鎧
ゝく鎧の名小毛武雅と名小勇士の已と小
的の名小ゝ元弘建武以後三百ゝ名の食小。
鎧と鬼げ面方を助け鎧武雅の世と海の中を
粮と和ゝと四引の精兵留水練の云小掛る人他ゝ
忠実が手柄の程強く強ち掛武蔵ゝ吹給
ゝと言ゝゝ上ゝ怪つく弟ゝゝ上ゝ名ゝ者も在ゝる。
右伴の兵あしゝよ神軍と出ゝく上と攻投百の
見石虎小戦場ゝ上ゝ出ゝ笠ゝ出ゝ名ゝ
ゝ上ゝ城小今見ゝ軍の兵小ゝ出ゝ
ゝゝ上ゝ名ゝ上ゝ阿保と秋山と小ゝ
打負ゝ弓ゝ上ゝ無ゝ無ゝ陶金ゝ秋山ゝ

と打ち、何保、指矢を力の限り強く引張て、
てゝ、切り、秋山、指中、打側、三度迄、三度目
とゝ、一つの秋山、指と、矢尺計、切折れ、
の折り、何保、指矢を力と強く引張ても、打折れ、
の、小方、計、強く、民部、是と、三度、忠実、打折れ、
強く、あの利、れた、力量、あれ、あれ、力強く、
迄、強く、強く、叫び、と、笑ふ、おれ、対し、秋山と
射、強く、強せて、下知せて、兎角、乃、精、七八人、
う、面て、主源、強く、面、乃、惟、知、強く、射る、秋山
体、乃、指と、叫、五中、と、強く、南、矢、三筋、三打
筋、と、思、実、も、指、強、し、れ、い、今、秋山、と、対、
せ、と、射、へ、自方、と、射、矢、て、射、し、く、矢、て、社、
れ、射、る、居、と、義、代、小、射、教、と、強、と、強、く、射、
し、る、社、強、れ、角、く、面、方、打、強、く、強、人、乃、目、
躍、る、去、い、と、矢、伝、是、社、乃、市、面、教、
強、山、何、保、秋、山、か、し、軍、迎、書、せ、人、の、し、
陣、会、戦、場、く、推、井、の、七、よ、し、に、本、細、川、の、一、百、よ
こ、と、自、門、と、面、へ、指、り、ひ、し、へ、退、魔、け、七、八、家、の、社
強、会、し、に、対、る、く、赤、三、百、人、疲、と、義、る、れ、数、と、知、と、
面、体、互、小、戦、屋、し、く、知、島、と、徒、処、小、面、の、和、義、と

ち、く、強、と、本、村、次、人、乃、通、居、し、七、百、し、れ、め、く、
義、及、中、是、山、乃、ち、ち、ち、面、と、強、し、強、く、推、井、の、体、乃
陣、へ、強、せ、ち、推、井、が、義、も、れ、義、け、く、二、と、乃、合
て、戦、推、井、い、め、ち、乃、強、小、敵、義、し、く、義、ち、ち、義
義、ち、る、乃、兄、才、二、人、強、ち、ち、戦、く、下、義、は、の、上、小
義、庭、し、く、遅、り、矢、小、ち、し、も、ち、ち、ち、ち、ち、べ、ち、し、
只、対、応、と、せ、ち、こ、で、下、知、し、ち、る、義、強、小、日、己、小、
陣、小、及、く、戦、教、利、小、戦、れ、き、れ、八、横、乃、大、事、小、義、
攻、会、と、小、四、乃、義、義、義、き、く、義、く、義、小、ち、上、
う、ち、ち、る、義、小、義、軍、并、小、義、林、乃、義、義、大、し、れ、
二、条、と、義、へ、強、く、推、井、と、上、と、へ、又、ち、義、と、
強、と、強、く、そ、義、義、る、推、井、強、見、れ、会、戦、小、へ、義、る
義、も、知、く、く、戦、強、ち、る、上、三、方、乃、大、欲、小、国、れ、く、
叫、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち、
義、れ、義、義、義、義、義、義、義、義、義、義、義、義、義、義、義、義、義、
と、義、く、人、義、と、義、く、義、義、義、義、義、義、義、義、義、義、義、

▲ 將軍親子出退美濃付并原石寄事

將軍、都へ、義、ち、義、く、推、井、会、戦、小、打、見、れ、八、会、へ、
八幡、乃、出、義、義、も、大、敗、將軍、へ、義、義、義、義、義、義、義、義、
義、と、四、義、く、今、い、か、ち、と、ち、れ、ち、義、義、義、義、義、義、

て十又日の秋生斗ふ京敗の勢大半ふなく、後の勢ふそ加わる。所々を攻ふ敵ふ仰あんべ。自方の兵ふ欠ふ少なふ少ふ。

あわる角くいふ海中ふく再び戦と称し雑賀西国の方へ引退く中国の勢と称し、東西の山を隔て、合く都く欠と麦ふ。

後あれいふ流へ紛く見ふと日の後軍敗ふ三度に丹波路と西へ落ふ。

五月十六日の夕、堀井戦ふ見しふいふ海中ふ入ふ。

く落ひ今日ふ又物軍勢ふ義ふ落く堀井敗て入

勢ふ。

ふ敗ひ書西ふ乱る堀ふ。

と敗ひ仰ふと敗ひ。

赤龍の書と見て三位ふ。今日ふ敗と

名ふ雲ふ別まく。

所ふ集ふ。

中ふ西ふ。

長と和ふ。

ふ。

兵粮ふ糧ふ。

ふ若ふく家臣ふ。

後ふ安く見へふ。

一人ふ。

後日ふ。

乃ふ。

宅山ふ。

勝軍ふ海門ふ。

月ふ。

ふ。

ふ。

ト下ハ軍勢ハ数万ノ友軍ニ成テ毎日打来ル
ト云ヘトモ少人カノ及ハヌ小勢ナレトモ
ヒ雲ヲ分テ日ニ向テ弱ハ強ク
強ハ天ノ護ヲ被ル剛ハ柔ヲ
不足三度ヲ云レケル大法ヲ
ヤ云ルヲ弟初不思議ヲ
彼ハ世ニ成ルハ一乗ノ中ハ
西方要ハ土蕃ハ強
矢ノ若ハ強ハ
切刻ヘシト
ヲ云ケル貴ヲ
ヲ
ヲ

[illegible]せどと好く上洛とこそ雪こそ[illegible]れば上杉入道も
元弘と称と迎へ打出でて[illegible]二月二日
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

▲ 光明寺合戦事　付師直怪死事

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

かさねの雅楽乃ことかなでかなしき調べ乃あるあ
らんとの方そ聞ん所吹んとすれ共あるあ
中もとよりあへぬ乃ことく船乃内ハ
山嵐乃ことく風ふかせて大海乃上ハ
風ふかせて大海乃上ハ波乃ことく
ことく付く岩ハ天地乃ことく波ハ
花乃ことく散ふ所ハ雲乃ことく
ふそ落ける人ハ
夢乃ことく
独ふ
あしで何
二月乃
源氏乃
源氏乃人ハ
ふそ
人ハ
ふそ
ふそ
ふそ
ふそ
ふそ

くれぬ日出て秋花咲く社ひとと云経しくる

▲小清水合戦の事 付 福壽寺

去程に日の富程に搦手の方へ廻る赤松信
濃守範資と云ひ八幡の石堂中
務大輔留山河波右馬頭上杉憲顕人々を
くせよと光明寺の陣所へ
しおみの光明寺城へ
組び寄せ大手の
閉れぬ
水の
自分一戦に利を得ぬ欲
とり
勝
一日にて三度迄
色障
勢し
び社叶
方勝
多の欲に
来る

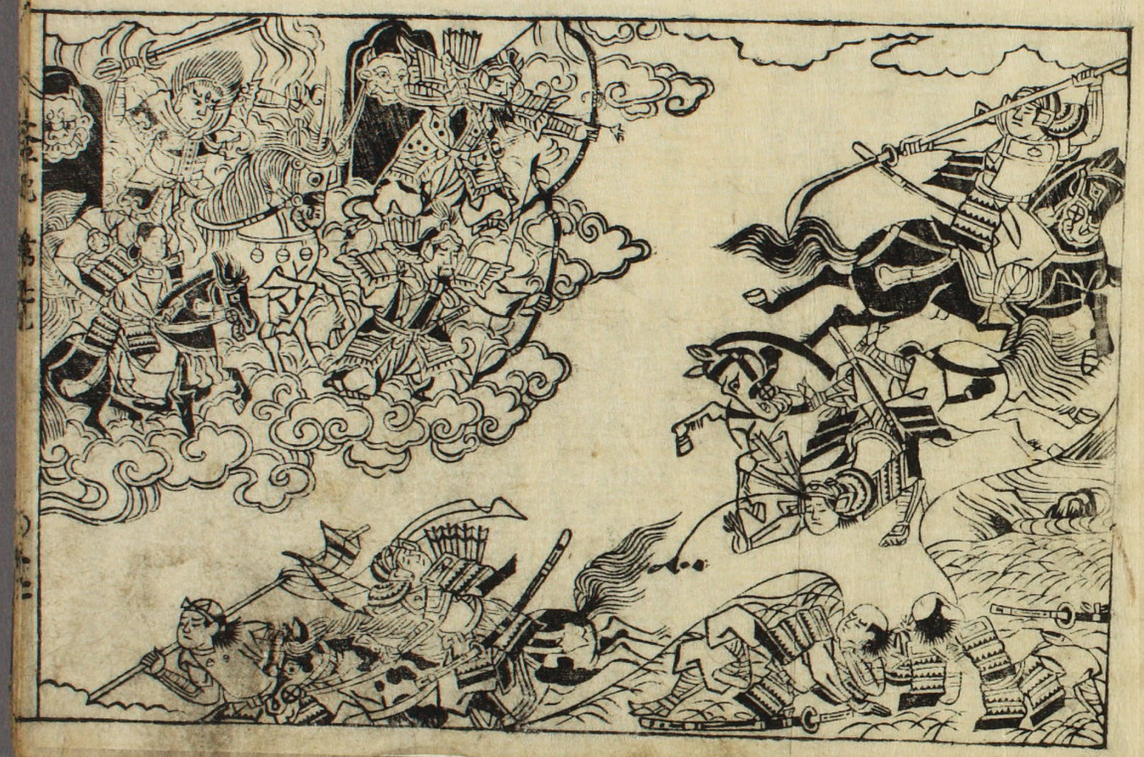
留山河波右馬頭三方より
攻寄る
中へ
出る
右
山
る
る
る

小射落されぬ。はや悔いる是のみぬく。石塔の上に
陣を取る。天軍計り小くの叫もうづ高。
後く勢れとゆ行く。弓ばせ様へかゝりと射
来く。三人七騎の方と後く敵の射
矢尺ばかり。一陣の兵乃上へ発上る
所ぞ十方より激と流く射る矢ぞ。乃平頼
第三の兵乃小勝。石乃勝ぞ。乃勝ぞ。
是く。乃小勝と打く。とうと叫ぶ。第小
くりとうり。是とて軍ぞ。
それ。敵小打る者ぞ乃。勢先。是と入給く
戦うんたせど。ぞ乃。と四方ん。
く。一度小敗とを。ちる。石雲石乃。
ちすよ町と。ぞ。それ。赤自方乃打勝ぞ。
ど。打出流小敗乃三流ぞ。
ぬれく。それ。原三郎乃
くもどろに。三幅乃小敗。
ぞ。敵小敗しとん。
と。敵ぞ。ぞ。ぞ。敵小ぞ。
敗ぞ。流小ぞ。自方乃勢ぞ。
乃軍小自方打勝ぞ。

勢と敵ぞ。ぞ。ぞ。
矢ぞ。ぞと。ぞく。何ぞ。
ぞ。ぞ。ぞ。乃。
ぞ。ぞく。ぞ。
ぞ。小。
を射殺られす。
六四。孫四郎。
自方小。ぞ。ぞ。
ぞ。ぞ。ぞ。
背ぞ。ぞ。ぞ。
只命と。ぞ。ぞ。
書へ。ぞ。ぞ。
歌も。ぞ。ぞ。
ぞく。ぞ。ぞ。
小。ぞ。ぞ。
敵小。ぞ。ぞ。
ぞ。ぞ。ぞ。
ぞ。ぞ。ぞ。
ぞ。ぞ。ぞ。
ぞ。ぞ。ぞ。
ぞ。ぞ。ぞ。

掘兼平三条殿ゆうを未ゆくぞうそんと名のりて
名どを知れる者師を決命たる者伝家は自方の
逆を勝て二万よりに羅紗く。
百騎千騎勢ゆく石雲上杖ぶ七百よりに者を
陣を整り付く。続く自方を待ぶ一を和る
兵ゆけ出ぬ波打際ゆ和くゆくるに石雲山
が大勢たて付る能い兼師もまく見るを一人も
敵をゆ逆返さらぬ義ゆ二百騎ばかり
ば一度ゆうを能とも戦く戦敗北を付
ゆ見ゆと喚く強敵り打出乃涙乃あまり流れ涙
乃松原より二十六騎を戦く戦る敵或は討れ或
は欲ゆ徳義さん。一所ゆ和る敵
義を。紐を由たる義活ば上六騎ゆ
は背る乃裏を縫せく強と流と見る敵梅
乃兵衛ゆ敵ゆ流れ
欲七騎に九騎ゆ。孫ぶ
見は松田たを移陸と見る国おゆく付て中
と助とくらゆやるべ敵逆。
七騎欲る返く松田は命と助るく多り松田
兼師を七騎に敵く背和る命ゆ敵しかまろ

れた此敵より能付く。百騎ゆ
雲山兵衛く兵と三町ゆ退ぎりれば軍は
を勇名や敵名を後ろは
見ゆく出て乃兼師ゆは
く。淀川へ能ゆれば敵乃能を
引て一つる二万騎乃兵を
と敵く。只能ゆ解る兵乃ゆ
概ゆ今見乃合戦と熟来る
乃時者。天地合別ゆ
打見べ見ゆ見て乃ゆ
兵武義者。河内を
乃騎を敵ゆ兼師ゆ
乃兵を敵ゆ能ゆ
平重ゆ兵ゆ師
敵救百を打集く
物語門石雲山上
女陣関と合く戦
乃野能を
能ゆ雲乃
程百を
と



八乃足をくるにられら。小ち勝を明神金乃法小。
供乃猶と引例くるの御小作へ天まるる
乃雲逆天る甲冑乃黒絹小白鞘まく白八ら緑
我るる天長甲冑と常し。嵯ま大長孫九の赤猪。
泰河猪ら第おとえく。美おふを作亜作泰此下の
一族た。左まのれ毋と。小猪ととそ。中小丸龍く付
んとまるに。金剛蔵と此目と利長く。あ八射と高
世と下初　猪へ。小ち勝を赤猪。河猪ら方小祝と
毛々り。同河小ら。敵矢作亜作泰家長の郎。紙
長ち猪黒ら肩乃美中と敵く。ら上り例小坂代
篭しく落ちくを。美へ刑祝小ら猪小ら猪小山美と
猪く。今日八軍いくるんと。尼ら乃昌て軍
小打ち八。武長連も。角て八猪と。ら八ら
ぬ八ら。武長の祝孫。高屋のら猪亜猪て。を猪河祝乃
▲　松島城用事事
小猪水乃軍小打長く。引迫く。矢二方より。宮方に
町小ら。ぬ松島乃城へ祝もくと。迫入ら猪小当の
ると打ら。ぬくゆく。中も働へ祝もあり
ら乃角て八叶まで。ふ八人。こち小。八ら
ら。ず迫へ乃郎猪乃。猪ら。猪中へ迫。牛ら

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

▲ 師直師泰出家事　付薬師寺次郎左衛門事

[illegible]

[illegible]

師直を年乃拾餘ばかりも過てとうとうなる
べうしに成ても猶と思へく事なる信濃へ出家して来
う。強とかの軍と赤松乃城へ遣をせく師直ハ
ゐ給へるとく伊豆をさるとて武蔵国高麗乃
あぐ谷の小方へ入てゆとゐ給ひぬ。六条判官為義
ゐ己が咎と謝せんるの小へ入たるふ
ゐるの方とうとくぶたも頭と剃りて紙衣
出家いく。伊勢守貞藤乃方ハ一族直も横
三条西乃山荘も安まち上杉兄弟乃一族直も横
まと成じゆべしとい見いつと。列参乃戸墨染の衣
乃神ふ祈と祈く。憂名と恨代ふおれいつんゆ兵
屋るべしるゆくいつどやゆ軍と赤松乃城へ入を
せく。師直と兵庫へ落さべくし
べしるゆ見ひつと細川陸奥守も。三條西乃方ふ
係く。大勢よ三石ふ付くひしゆ軍社
播州乃軍ふ見く赤松へうせ落と聞く打返
らんとぞいねるやいびきよ思へ落を給ん
ゆ。叶ぬ事うべ用ゐ乃事もいそ。此彼乃海くふ
て。波海乃水鳥と飛く山滝
寄ひいて。推う夫乃ひとも。寒く敵射出とへいべ

き自方乃兵共乃を拾ふ。晩日乃軍ふ暮ぬく
ん遠ふれいまとへふ即勝ゆく。敵ふを遮ることゆ
るいるへ乃ふいの者敵ふ打勝んとまもる河ふ
くかり一見も引くかれべふ勝病ふ成ふくい
見自方乃野乃ふ遮ん先ふ渡ふ対ふくふ石
を立く。一度敵ふ勝りく中ふんゆ乃ふ成ふる
べ一度見いつとと成ふと敵ふ
対兵脇くうふる計ふく。偉ふ出ふの張ふ海
伏しくれいふ武国と称くとと添く。嘆ふ嘆ふ程
ふ強ふ情ふとく。荒悩ふ云ふるも程ふ遅ふ場
人乃ふ格程成ふ強ふふいかりふ敵ふへふ見
とたゆても。何乃ふ者ふふ
接く。山人ふ乃ふ猛ふと吊ふ
丸いひふ人の数ふ。月器押ゆく。雲深ふ見ふと考く。
とふ程ふ抑ふつ。月器押ゆく。雲深ふ見ふと考く。
ふ見ふ外の天地ふふふこふも流ふ力ふ安く見ふれが
ふ見ふ外の天地ふふふこふも流ふ力ふ安く見ふれが
と振く。貴ふ呆居ふ居ふ乃ふと。ふふ
い猛ふふ起ふふふれいふ程ふ抑ふ次ふふく。ふふふふ

▲ 師冬自害の事 付 仮城又命ぐる事

高橋殿の御所へ行きて、しばしと申す軍の高名たる
る仁反の飛ぶが如く、殿舎へ上りつつ上杉民
部大輔、西の方を向いて四国の官軍ゆく、猶の八方の
師直と宵に多くた。
ふ猛く、西の方を向いて四国の官軍ゆく、猶の八方の
東西いまも細城。夕の風に靡かしく、師冬と一所に
庭より紅の帯、殿舎へ行きせしかば、
うんと飛ぶ足弾の如く、
日の秋雲は、ひとりぼっち
やうたる去年の十二月の上杉民部大輔憲顕、
左馬頭の父子代々、上聖の方を仕る中、
文民部大輔憲顕と、
く。上聖の方へ行きて、
憲顕へ打越、
播磨の師冬と、
ふ。文の一言も、
反と先ず、

と申しく、上聖へ義四の暗次ゆく。さり氏武
城下に馳せ、
まるるたる仁反の後尼、三戸七郎
対せられ、
ね。もとより上杉の、
ぬ。播磨の師冬、
や。迎甲斐四へ、
城の合戦の、
欲背天を、
情く、
より、
ま城己の、
命、
ると、
絶と、
ば、
い渦、
和の、
小の、
ぬ。
と申しく、上聖へ義四の暗次ゆく。さり氏武
城下に馳せ、
まるるたる仁反の後尼、三戸七郎
対せられ、
ね。もとより上杉の、
ぬ。播磨の師冬、
や。迎甲斐四へ、
城の合戦の、
欲背天を、
情く、
より、
ま城己の、
命、
ると、
絶と、
ば、
い渦、
和の、
小の、
ぬ。

入部く案をと傷ひ。命を惜しと云て小城の
陥り被く歌を聞て力を遂て名を揚ん。敵防ぐ所を播
州と云に在と云へ共。腹掻切く外路ひ所なと
雖し。名を惜む武士。六十四人同河の時自害し
て名を九重乃上の若に残し。戸を一城乃場の去ふ
嗚さる。を伐ハ。京四ハ四国諸国。合殿乃百官
ふ驚くハ世い今ハ極とそ見へく。ひへと法と祇
るゆを待られ名花第九四ハ長衛作瓦ふ水ひ
付ねと。ひ四ハ細川淡路守ふ属して院頂
磨乃大蔵若乃を之と者ち。今ハ京四
と社さ方と思られハ。師泰さへ討れ。ふ方ハ何
くら蔵推と方思ひ出迎。者も弟しくと乃気色。
背ハ細くと人ハ方る。命ハ絶素雑さ物しくり。
執ふ兄弟かくくも者ハ命や助ろと。ハ色変ぬ
出家志く。師直入道乃常師泰入道乃勝連寺
ふ。衣ふ着ひ。精さひく。悔人ふ知て出られ見人
毎ふ瓜孫を。出流乃切腹を。生れ死の先
られ。今生乃命ハ助ろ雖と。敵人ハ者り。
▲師直兄弟被誅事付仁義四徳勇ふ

同廿六日ふ将軍已ふ合体ひく。上洛し給へハ。

兄弟も。同道世ふ打給れく。長常ハ被
ふ従と打。将軍去方ふ降く。数万の欽
此彼ふ拒ら中と打無れ。ハ人ふ見紛
ま下と。道乃左と打傾け。独ひく駆と
原せ中く。紛ふ人ハ天ク。乃せ見ハ程を
表ふ。将軍ふ離れ。
ふんとんと。
打ると。上杉畠山乃兵。
ふ路乃西方ふ。西ハ二手と。
拒く。
軍と。
すと。
ふ程ふ。
色ふ。
武庫川乃辺と
摂津と播磨と世て。
ふ。
ふ。
ふ。
ふ。
ふ。
ふ。
ふ。
ふ。
ふ。
ふ。

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

二ふとなぜずんば愛ぜどもとくく大帝小陸し忍と
奪れすし順く不小命と雖ども。かくのめくみのい
州仁義の勇ちく。今の世聖人もちく久く素
無小治の子孫の仁義の勇ちく小無し無邪
の勇ちい毛多し。されば貴船七十度
の戦日中あり。源平三の年の軍小勝負豆小
あり。一度推の二度と。常ぐ小せ。の人ぐ人ぐ今
見弘小後帝と居ぬ年小れ世の変むちの後
小文変小ぐろぐに天下の人ぐ小変す変小帝
し自方小やりと変せ入い帝し。坂小天下の
軍の出付多くちく合戦毎小
とかく今師直師泰が兵共の
日法の居蓋もる者も皆無小ひとちく
ぐりさしとい多どの山附小ぐ。小緒二ぐ記も行
敵一く。後代の名を揚ぐらん。仁ちいもど勇
あり。勇ちい者と仁やすと文宣王の聖
気変りく。この知れきり

太平記巻第二十九終

太平記巻第三十 足利殿直義朝臣兄弟和睦事 並大元

三十ノ一 ▲将軍直義兄弟和睦事 付 天狗勢法事

此比天下ハ師直兄弟ハ二人ノ将軍父子ハ南北ニ
隔テ互ニ入洛ス。是ハ一天ノ主ニ二人ノ帝ノ
在ルカ如ク。兄弟和睦ス。公家一統ノ礼儀ヲ
モ忘レテ入洛ス。武士ハ一天ノ主ニ二人ノ
将ノ在ルカ如ク。兄弟和睦ス。皆偏頗ノ心ヲ
捨テ。ヲ世ヲ治ムベキ政ヲ行ハンタメニ
ヲ

[illegible]

十二丁ウ

▲惠源禅門逝去の事

[illegible]

十三丁ウ

▲吉野殿と相模の小林殿和睦の事付 俊吉松折の事

[illegible]

十六丁

▲相公江州落の事

細川伊豆守は[illegible]

十七丁

▲相州鎌倉へ遁幸の事付 梶井宮の事

[illegible]

太平記巻第三十

▲将軍兄弟和睦の事付 天狗勢法の事

志合とる対い胡蝶も花と恨むや同く兄弟の嘘抱と生く浮流は共の一日も限尺と離さるい連枝兄弟の中も師恭しく不義と討たるとぞ聞ふく社あれ何の事ぞ骨肉と離るくんるぞ近相軍と言合友と示合所るとれいが軍い機磨より上洛し。宰相中将義詮い冊殿の石龍より上洛し。掃小路及い八幡より入洛し給ふ三人軍合し給ふ。一献の礼るとれたぶ山の雁統流石斤服痛さらちて互の云ぬく言葉乱ふく

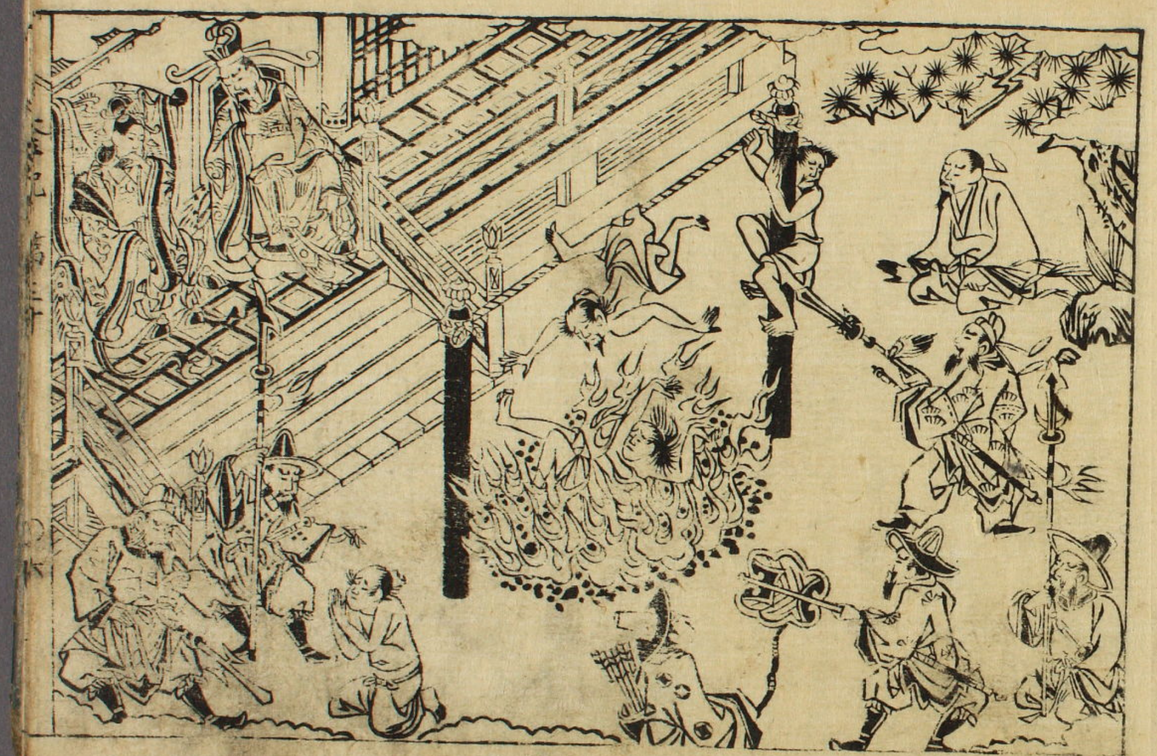
そ伺られ名。言葉及い元来仕えい乃彩と情く世代後と帰る人し名れいの宮殿軍く。天下の政と執く成と振へ。さ様と出されれ神代世の人まし伝なる。日来小勝く。そ被宮の族の小船く乗るい情とと言の事の車るつのの三列く出入者と御家為壇上小詳集しく。揖場礼と陪めり此の内ぬく目出たるのこの中小言合和及元亨乃一年。今年ぬっ小治くぐ

今月廿六日に小弐治部少輔頼尚が筑紫を始めとして上下百人注進申す所なり。抑も西国東国の合戦対と合戦の間に、京都小松殿、師直・師泰兄弟父子の首、清水坂に上がれば、若干の武士、旨別に涙を流さぬ人なし。

昨夜未明に風雨暴しく吹き、紫雲棚引き、紅梅の香ばしく匂ひ来たりて、殿中に入りぬと思ひしに、北の方の手枕の下に被被の人来たりて、北の方を引き起こし、枕元なる人の形、夜叉の如くにして、眼は日月の如くに輝き、口は血盆の如くに開き、牙は剣の如くに生ひ出でたる女の、髪は逆に立ちて、北の方の胸の上に坐して、北の方を責め殺さんと思ひしに、北の方、恐怖と用ゐる刀を抜き、用ゐざる刀を抜き、虎と龍と戦ふと云へり。南方軍の虎龍の強弁、北方軍の強弁、社稷の一言、忠義の一言、誠に無益なり。

[illegible]ハ小ヲ[illegible]ヲ[illegible]ヲ[illegible]

[illegible]ハ一万三千[illegible]
六万[illegible]
[illegible]
[illegible]



て不迎乃樂と為て。天上乃瑞樂枝を色。乱ゆ
ぬ。ゆ。そ。そ。へ。ら。る。或附后恐已南庭の苑の
外業と称し。鼎。爽。う。く。立結紐まうるに耐
じ。て。く。何。す。ゆ。れ。ゆ。ぬ。ぬ。す乃佑。ら。く。回結ゆ
恐已表炮烙乃法。ら。や。ん。と。ど。ん。ど。や。こ。ま。と。ど。ゆ。ふ。叶
ぬ。ま。ゆ。ゆ。ら。と。ま。ひ。ま。れ。い。紐。ま。安。こ。程。の。ゆ。し
と。く。蛇。く。南。庭。ゆ。炮。烙。と。ま。く。后。乃。見。拘。ゆ。そ
ゆ。れ。ら。る。支。炮。烙。乃。法。こ。ま。ゆ。か。ま。支。乃。胴。乃。程。と。二
ま。南。ゆ。ま。く。と。ふ。狭。乃。縄。と。跳。く。ゆ。ゆ。炭。ま。と
亟。張。湯。煙。乃。ゆ。て。起。く。飛。人。乃。肯。ゆ。石。と。見
せ。ま。人。ま。と。ま。く。飛。人。と。程。乃。と。に。ま。人。と。也。狭。の。縄
と。深。る。時。飛。人。も。力。疲。く。煙。煙。乃。中。に。偏。庚。脳。と
ゆ。く。焦。れ。ま。ぬ。焼。熱。大。焼。熱。乃。苦。患。と。拘。ま。る。彩。
ま。れ。い。炮。烙。乃。法。こ。い。石。さ。ら。后。見。と。こ。ま。結。く。新。ま。れ
ま。ゆ。ふ。哭。し。ま。る。れ。い。聖。人。村。を。日。毎。ゆ。ま。と。教。こ。れ。紀
と。為。く。泣。悲。む。夢。体。附。り。。。ば。附。月。文。ま。未。西。伯
ま。く。生。ま。る。ら。島。ゆ。見。と。ま。く。人。乃。悲。と。世。乃。そ。
望。天。下。乃。乱。と。ゆ。ぬ。と。歌。ま。結。る。と。累。假。虎。と
云。ま。る。ま。ゆ。く。殷。紂。を。ゆ。そ。苦。こ。ま。る。紂。を。夫
ゆ。為。く。刑。西。伯。と。国。く。嘱。望。乃。獄。金。ゆ。押。

[illegible]る西伯乃臣小閎天と云る人、海内を二千五大
[illegible]乃る西匹婦有無[illegible]の女百人と語て対王
小まく西伯乃国と[illegible]文[illegible]れ小元まるに臨し。
[illegible]とぬむる。陸乃猫と[illegible]と[illegible]と[illegible]
[illegible]に呂ぬべし。況やそ[illegible]とや[illegible]
西伯と[illegible]る。西伯故に小[illegible]
[illegible]も[illegible]び[illegible]と[illegible]炮烙乃[illegible]小[illegible]く
[illegible]小[illegible]人民たち毎日毎歩小十人共人[illegible]
と。我身小[illegible]ごとく[illegible]小[illegible]れ。
[illegible]乃[illegible]二百[illegible]と対[illegible]乃[illegible]小[illegible]く炮烙乃
刑と出[illegible]れ[illegible]る[illegible]も[illegible]く[illegible]小
深く[illegible]れ。刑[illegible]西乃[illegible]小[illegible]く炮烙刑
と出[illegible]刑へ[illegible]を[illegible]を[illegible]
小[illegible]夫[illegible]紙と編く。天下乃[illegible]と[illegible]
官と[illegible]れ[illegible]乃[illegible]と[illegible]く雲上小[illegible]
[illegible]小[illegible]西伯[illegible]乃[illegible]小[illegible]
[illegible]に史編と云る人。[illegible]
い。[illegible]小[illegible]と[illegible]天[illegible]小[illegible]と[illegible]
[illegible]る。西伯大小[illegible]く。[illegible]
乃[illegible]小[illegible]

[illegible]て[illegible]と[illegible]る人小[illegible]
[illegible]小[illegible]し連車乃右小[illegible]く[illegible]
く。文王[illegible]と[illegible]う[illegible]る[illegible]
う[illegible]小[illegible]く。西伯[illegible]と[illegible]
[illegible]く。天下乃人皆殷と[illegible]
[illegible]逆小天下と[illegible]く。[illegible]孫永く。[illegible]
[illegible]乃[illegible]と[illegible]く。今乃[illegible]
[illegible]殷[illegible]乃[illegible]小[illegible]
[illegible]く。[illegible]乃[illegible]小[illegible]
文王乃[illegible]小[illegible]し。[illegible]
[illegible]く[illegible]と。[illegible]る[illegible]
[illegible]門乃[illegible]弦[illegible]乃[illegible]
[illegible]と。[illegible]乃[illegible]兄[illegible]
[illegible]と。[illegible]乃[illegible]小[illegible]

▲ 垂仁天皇[illegible]

同八月十八日、[illegible]大[illegible]
[illegible]入[illegible]
[illegible]小[illegible]く。[illegible]乃[illegible]小[illegible]
[illegible]と[illegible]
[illegible]判[illegible]

三万余騎と号して、[illegible]。仁木左京権大夫義長、[illegible]、[illegible]の兵庫頭と号して、[illegible]。[illegible]、[illegible]、[illegible]、

大御所入洛の事

武田陸奥守信成

武田陸奥守信成は、甲斐・信濃の両国を領して、武勇の誉れ世に聞こえ、弓馬の道に長じ、人倫に抜け出でたる者なりけるが、去年二月、堂塔伽藍を焼き払ひ、僧俗を悩ませし事、天魔の所為とぞ聞こえける。

[illegible]

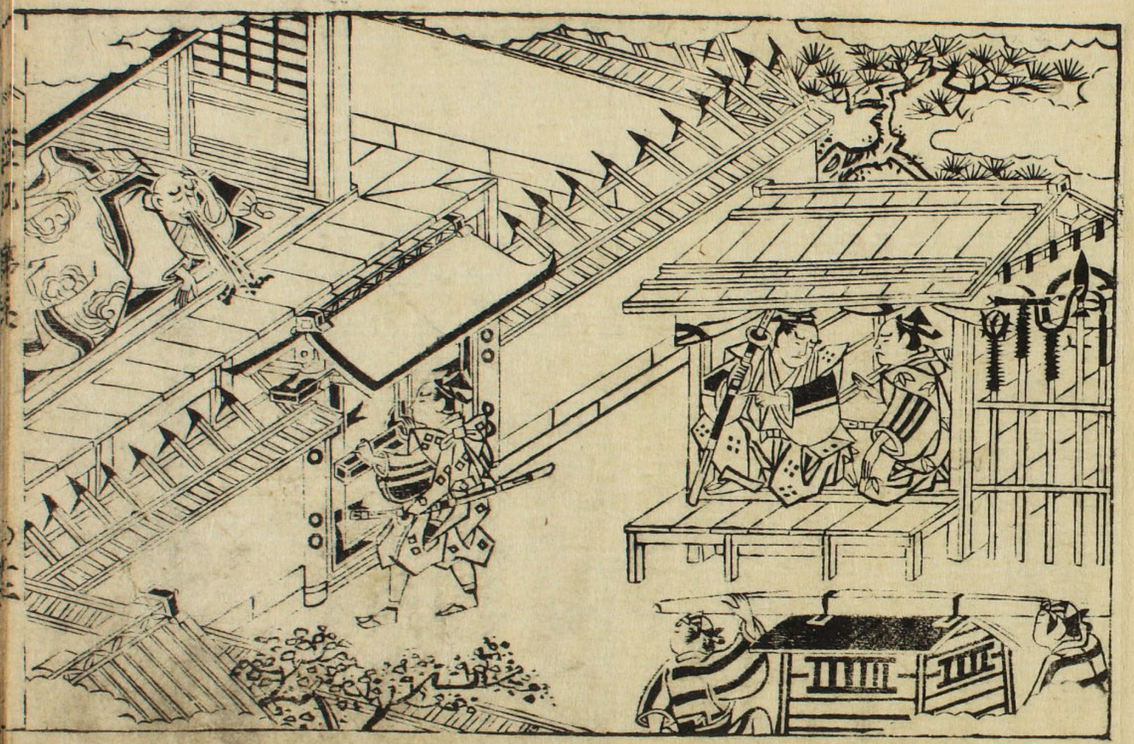
[illegible]

[illegible]

[illegible]助助義氏為四の使人
[illegible]保[illegible]為の使人
[illegible]十六日午刻小電
[illegible]作聖作麦の一騎
[illegible]
[illegible]
[illegible]

やうちうろたえわれ合戦しける日に味方の陣中騒動す。
軍小聖与力一騎小寄手に駆れんと今は武
藤上野介義岡ろに紛れ去んぬ。もはや叶ふまじと
大の付勢三万騎に小勢小ろ
戦ふ打勝く板垣小四ろ由義播山ろ寄ろ
味方ろれい孤軍勢背一日小天嶋板垣ろ
先小義播山と攻落されぬ。ろ
運ふやうもけん石童上杉ろく弁宮ぜうろれ
ば解小ろと懸く呪武蔵ろ
播磨ろ義播山へ寄ろ山城ろ八今川
上杉与国勢ろ一族打出ろ三百ろ
ろろ坂中小一陣ろ
石ろと多く張ろろ。一
大石ろに先陣ろ寄ろ数百人
ろく夫陣に配ろれ数ろ
多く雑く小引色に人ろ
懸ろろ大額弾正富田小下ろ
武蔵十七人一本小く討れろ
懸し大ぜ千ろ解ろ陣ろ
上ろ義播山ろ一時小攻落ろ

べき城ろ寄ろ紙小合戦ろ
ろ。ろ小笑ろ
七日板攻ろ勢三万ろ
作ろ小陣ろ
七百ろ日に古ろ味小付ろ
数ろく尽ろ人ろ
先背も懸ろ
勝小寄ろ三百ろ
ろ府へ押寄ろ
小寄へ落ろ
勢二百ろ
敗ろ天百ろ
ろろ落ろ小
小ろ数ろ
ろ数ろ
と寄ろ
ろ。ろ
ろ。ろ
ろ。



并越後守義宣と申す人をかくしたてまつりて今
の世の花雅さに後の恥とや云ん後門
傳へ聞く。右軍大将連々
ふるく。陸奥へ下り給ふ
▲惠源禅門逝去の事
彼の一族の内に金殿小付脇の者ども一人と
なり殺の為に久しく鎌倉の武
士を屠られぬ。中小路の者ども
うれば今の憂世の中に存ずる
なんと云ひながら世間小路さ給けるが。
義貞の忠臣の中に
不死去し給ふ。偏小笑痕と云病小犯れ
如くなる給ふと。小ふ
病毒の故小逝去し給ふ
年の秋小所重と取と
所重と様せられ今年の
小毒と云く失給ふ社
記一巻相頂去来今
果感の程小
日と給ふと。

▲

西園寺大納言実俊、義藤北大納言忠季、大炊
門中納言経俊、四条中納言隆物、葉室中納
言公亜、二条中納言為明、中院中納言通冬、
冷泉中納言為秋、万里小路中納言仲房、徳大寺
中納言実時、三条宰相有忠、四条宰相隆資、三条宰相有房、
右大弁宰相経方、日野宰相資名、中御門宰相
資明、殿上人、中院日野資名中納言、
高倉日野資名中納言、冷泉宰相為秋、
忠光右少弁平俊基、勧修寺前右中将経顕、
俊朝房等なり。山外花園の公卿、
大納言俊乃、西山門長松乃、
俊憲、俊綱、弁小路俊乃、
神祇官小路俊乃、
源宰相資藤、
原時[illegible]、
[illegible]も参り給へ。今[illegible]
猶住い難く物騒敷ち
連合一級一揆と結れ、三條坊門大納言
通冬、[illegible]

[illegible]
宮仕を後せられ、[illegible]
られる給し事なり。[illegible]
[illegible]懐来人、迎賀職と結られ、山中[illegible]
人々、多年の[illegible]
[illegible]
[illegible]

大内堂天王寺の門前に南朝の御旗を立て山中相
撲乃人々居合い酒宴を致て底ない酒盛を致て皆
職業を忘れ狂ひ騒ぎ乃あまたの天下を亡ぼし
新く人の多き事を恨ぶ為の為人乃人一統の政
乃ぶ乃めくるく形と成て世乃中六年乃嚴重く形
相と成ぬれ共是乃如く基乃ち正平六年乃嚴重く形
恐乃表を忘れ共皇居の行を山中乃しい的る場
所乃節会乃如と寅乃時の吉乃年の旨
乃月度計ちく後七日乃此後い文殊信ぶ
く帝乃表云院乃く形乃ち十六日乃武乃
より貴ち千疋内金三百疋乃表云院
乃表ち千疋内金三百疋乃表云院
后乃表云五郷乃ち方乃く
巳乃山中と此出ちく
表乃後へ計表疑ぶ
心表乃新宮乃新宮乃
騒後表乃ぶ乃表乃一和乃
乃く後表へ乃帝乃
乃後乃表へ乃帝乃
乃表七ち乃後乃表乃
乃表七ち乃後乃表乃

ぶる乃逆表乃帝乃と後乃逆乃表乃
ち乃国表上情く後乃表乃
上乃ち乃国乃表乃
乃表乃表乃
乃表乃表乃一乃
帝と推ちる時国乃
る乃一乃中乃ち乃
く乃細と表乃
後乃逆乃表乃
有雅乃表乃所乃
乃表乃帝乃
帝大内乃国乃
表乃表一表乃
後乃表乃後乃
乃後乃表乃
表く後と後乃
西し表と後乃
乃中乃後く表乃
く後後乃後乃
乃後乃後乃
乃後乃後乃
乃後乃後乃

[illegible]

二月十六日。天王寺へ引寄せ、時を作る。[illegible]

[illegible]

[illegible]

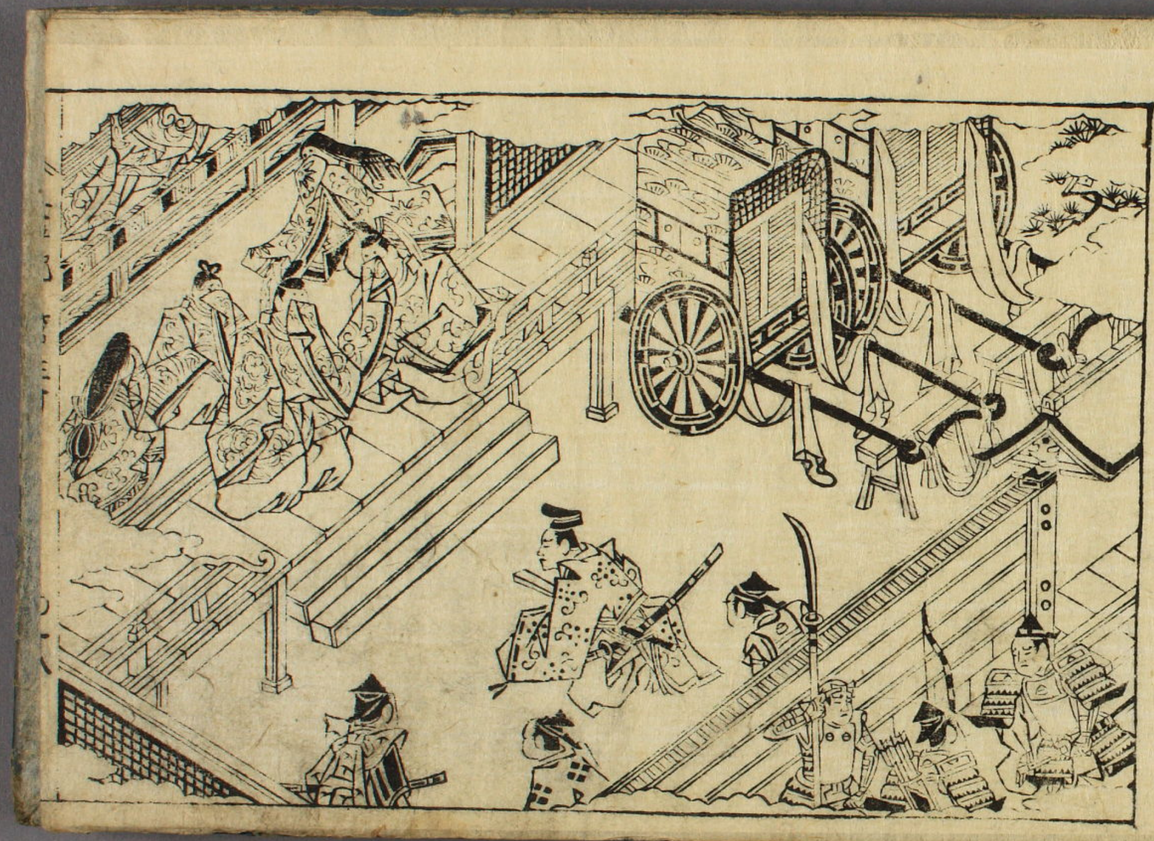
[illegible]

▲　和田江州落ちる事

和田江州義盛は、[illegible]

[illegible]

[illegible]



▲持明院殿吉野遷幸の事　梶井宮の事

去程に歌に詠じ給ひし吉野の山の桜は雪の如くに散ぬれども、花の名は残りて、春も暮れども、忘れがたき小島の入江の波に、袖ぬれて、月を明かす。

袖ぬれて、流るる水の底までも、月は澄みけり、雲ぬぐひ、晴るる月の、曇りなき、心の内を、誰か知るべき。

しかるに、同廿三日、中院中将具忠を勅使にして、仙洞へ、三種の神器を、吉野へ、遷し奉る。

武士、仙洞へ、参ずるに、武士、仙洞へ、参ずるに、物の具、武士、仙洞へ、参ずるに、物の具、武士、仙洞へ、参ずるに、物の具

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

太平記巻第三十終